

# オゾンガスO<sub>3</sub>による消毒・滅菌の導入について

オゾンO<sub>3</sub>はオゾン層で生成され、大気をきれいにする働き(消臭・除菌)をしています。紫外線や雷の放電によって大気中の酸素からつくられ、私たちを取り巻く空気にも微量ながら含まれています。オゾンには独特のにおいがあり、高原や日差しが強い海岸、森林などの空気に多く含まれています。オゾンは大気をきれいにした後、時間と共に安定した酸素にもどる性質があり、反応後に残留物を出さないため極めて安全な物質です。

適切な濃度のオゾンガスを利用して、新型コロナウイルスをはじめ多くの病原体を不活化することができます。当院では、院内でオゾンガスを発生させ、夜間は院内の換気を止めてオゾン濃度を環境基準ぎりぎりまで高めることで、待合室、トイレなど患者さんが利用される院内の空間について消毒を行っています。開院後は換気を再開して、院内のオゾンをより低濃度にしていきます。これにより、新型コロナウイルスなどによる院内感染を予防する効果が期待できます。

なお、当院のオゾンガス発生装置は、奈良県立医科大学との共同研究で、本年5月に「オゾンガスによる新型コロナウイルス不活化効果を確認」した株式会社タムラテコ様のご厚意により、同社製のBT-03を使用しております。